

誰一人置き去りにしない
 社会を目指して



発行：SDGs いたばしネットワーク
 発行日：2020年9月12日

※SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略。
 国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国連目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として置き去りにしないことを誓っています。

もくじ 特集 コロナ禍だからこそSDGsを羅針盤に！

- 2020(令和2)年度 SDGsいたばしネットワーク総会、地域ブロックピックス … 2
- 課題プロジェクト学習会報告 … 3
- 特集「コロナ禍だからこそSDGsを羅針盤に」… 4
- 地域ブロックの活動 … 5
- 冊子作成プロジェクト開始 … 6
- パンフレット, SDGsいたばしの歌ができました♪ … 7
- お知らせ&会員・ボランティア募集 … 8

7月12日（日）、仲宿地域センターで開催された総会風景
 コロナ感染防止のため、少ない人数で実施しました



6月14日（日）小雨の中、板橋区立平和公園で実施された「ふれあい献血」会場風景
 当日は31名が献血に参加されました



池のカモの親子も応援してくれました！

- S** すべての板橋区民は
- D** “誰も置き去りにしない・させない”を目標に
- G** 具体的な自分ごととして行動します。
- s** さあ！つながろうSDGs

やはり気になる、私たちが「置き去りにしてしまっている“目標”」を再考 ——新聞のコラム記事をヒントにSDGs 17 目標の学習推進を——

現在進行形のコロナ禍。今、生きている人たちが経験したことのないコロナ禍に関わる課題。このことについては、アンケートなどで課題を整理し次号ニュースで「特集」を組む必要があると思っています。

さて、ここに来て、私たちの活動に力強い胎動が感じ取れるようになりました。その活動を当ニュースで紹介していますのでご覧ください。

その中であって、標題につながる課題提起の一文が某新聞のコラムに掲載され、私は強い関心と衝撃を覚えました。それは『生命の本質は「つながっていること」「すべての細胞がメッセージを出し合うことで、生命は維持されている」「いわば、細胞同士、臓器同士が“語り合う”。それにより、「つながり」が生まれ、人体という神秘の「ネットワーク」を機能させ、生命を支える。一方で、死とは“消え去ること”ではなくて「ネットワーク」が「つながり」を失うことと捉える。(京都大学 iPS 細胞研究所 所長・山中伸弥)』

言葉を少し置き換えれば、SDGs の世界観を見事に言い当てていると思います (このことについては、私たちの仲間 (株) アイカムの武田さん、川村さんが何年も前に著書、映像で著しています。……)。

そして、このことは、その感動と同時に、今取り組んでいる SDGs 「17 目標」への私たちの在り方に対し強い問いかけになっています。その問いが標題の『私たちが「置き去りにしてしまっている“目標”」を再考』で、SDGs を標榜している私たちは改めて 17 目標の認識を共有する活動、例えば、学習活動などを推進していくことが求められていると思いました。今後みなさんと一緒に、無理なくスッキリと「17 目標」が私たちの意識と行動にかみ合うには、どうすれば良いかを考え行動していきたいと思っています。

2020年9月12日 SDGs いたばしネットワーク代表 加藤 勉

□会則に従って「2020(令和2年)年度総会開催」を開催致しました

7月12日(日)午前10時～11時35分 仲宿地域センターにおいて、「2020年度SDGs いたばしネットワーク」総会を開催しました。今回はコロナ禍もあり議題についてはなるべく事前に書面でご承認を頂き、必要最小人数で開催しました。

またZoomによるビデオ会議を導入しました。提出された議案は以下の5議案で全て承認されました。

※出席正会員数 86名・団体

第1号議案 2019(令和元)年度事業報告及び承認について

第2号議案 2019(令和元)年度収支会計報告・監査報告及び承認について

第3号議案 2020(令和2)年度事業計画(案)提出及び承認について

第4号議案 2020(令和2)年度収支計画(案)提出及び承認について

第5号議案 2020(令和2)年度会則ならびに役員(案)について

従来の役員に加え、幹事に新しく以下7名が加わるようになりました。

秋庭英夫、上杉博史、神元幸津江、佐藤文雄、徳田光春、林則子、村松円(五十音順、敬称略)

□地域ブロックトピックス

向原コミュニティバス(桜川・大谷口・仲町ブロック)



「ボランティア互助交通」実証実験運行のため、運転手(普通免許)と車両(普通乗用車)を貸していただける方を募集します(週1-2回)

カーボランティア募集中!

連絡先 03-3974-3036 林

「水害避難」にいて(SDGs まちの学校高島平)

昨年の台風(19号)や最近の大雨による雨被害、がけ崩れ、川の氾濫のリスクが高まってきました。避難訓練は地震災害を想定してきましたが、今後は「水害の想定」も重要となります。特に高島平地区は、荒川、白子川が氾濫すれば大きな災害に繋がります。そこで板橋区危機管理室と連携し、水害被害の講演、避難シミュレーション、避難所まで歩いての避難訓練などを実施、計画しています。

課題プロジェクト学習会報告

昨年から今年3月にかけて計7回、テーマ別の学習会を開催しました。活動内容を以下に一覧しています。なお、各回とも会場はディサービスおむすびで19時～21時位まで、平均15名程度が出席しました。

回	開催日	テーマ	検討内容（要約）
1	2019.12.11	①板橋区総合計画の構成と確認 ②各課題の分担及び検討方法確認	□SDGsの取組みについて区との意見交換を行い、ネットワークの活動が区に見えやすく、またお互いに協力しやすい環境整備を行っていく事とした。
2	2020.1.15	③障がい分野 ④貧困・格差 ⑤防災・減災	□板橋区の総合計画に“リンクする”、“要素を盛込む”、“独自に計画する”の方法でバックキャストや客観的でわかりやすい評価指標を設定し活動する。 □既に多くの施策、情報があり必要なものを整理する。
3	1.29	⑥公正／社会的責任／平和／国際協力 ⑦企業連携	□今回のテーマは幅広く、行政・市民・企業の連携が重要となる。テーマに興味のある企業・団体などと、少人数のプロジェクトチームでの検討が必要。 (中小企業のトップが設立総会に出席している)
4	2.12	⑧教育 ⑨保健、福祉・医療 ⑩まちづくり	□個の尊厳<誰も置き去りにしない>を踏まえて板橋での共生社会をデザインしていく。 □不登校や生徒の問題行動は最初は“小さな心の不安”がきっかけで色々な条件、環境が重なったことによる。児童だけでなく大人社会でも同様な事があり、地域全体での支え合いが今以上に必要となっている。
5	2.26	⑪ジェンダー平等 ⑫環境 ⑬子ども・若者（ユース）	□ジェンダー平等や若者の社会的自立は、ビジョンだけでなく、具体的な社会づくりをテーマとしてきめ細かな対応が必要になっている。 □“生きづらさ”を越えて板橋から平等・共生の社会づくりを進めて行く。
6	3.11	(1) 行政との協働学習の進め方の検討	□各テーマの検討を通して板橋から平和・共生の社会づくりというストーリーが見えてきた。
7	3.25	(2) 会員全体での課題・運動の共有に向けた取り組みの検討	□今後、各テーマについて具体的、個性的で共感性のある検討を進める。 □国連17目標、169ターゲットに対し区政策とも連携しながら、実態調査で現状を知り、事実に基づき、企業と連携し課題解決を行っていく。

誰も置き去りにしない「地域共生社会」の推進（事業）と行政、企業と連携した課題協働（学習）が今後の重要な活動テーマとなる。

特集「コロナ禍だからこそSDGsを羅針盤に」

コロナ禍によりSDGsの2030年の目標達成が危ぶまれています。ここでは、私たちの活動に関連の深い団体の声明、提言を要約しご紹介します。(詳細は各団体のWebサイト参照)

各団体はコロナ禍でのSDGsの停滞、後退を危惧し、SDGsこそが今必要な羅針盤と位置付けています

◎一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク (SDGsジャパン) (2020年3月27日)

今こそ、SDGsの理念に基づく対策を

＝「新型コロナウイルス感染症」対策に関するSDGs市民社会ネットワークの声明＝

「だれ一人取り残すことなく、貧困のない持続可能な社会へ、この世界を変革する」。国や都道府県の境界、疫病や障がいの有無、ジェンダー、人種、年齢などに基づく分断や排除につながることはあってはならない。この立場からSDGsの理念に基づき、以下の3つを提言します。

①未来世代を含めた「誰一人取り残さない」経済・社会的包摂のための施策の導入を。

最も厳しい状況に置かれた人々の生命と生活を救済することに最大限の力を注ぐ経済対策が必要です。

②隔てられた物理的距離をつなぐ連帯と包摂を。

患者あるいは疑いのある人などを一時的に遮断、隔離することが必要であるが、常にメディアやインターネットなどを活用して社会との関わりが保障されるべきである。

③透明性と公開性を担保し、民主主義と法的手続きを遵守した政策形成と対応を。

患者あるいは疑いのある人などの人権を始めとするあらゆる権利が透明性の中で最大限保障される必要がある。

SDGsジャパンは、COVID-19(2019年新型コロナウイルス感染症)に関するすべての施策が、ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ(UHC)と地球規模感染症対策の重点化、人権の尊重、ジェンダー平等、貧困・格差の解消、経済的・環境的公正、教育機会の保障など、SDGsの理念を踏まえて実施されるよう求めます。

◎SDGs推進円卓会議構成委員による提言 (SDGs推進本部長宛、2020年7月30日)

SDGsでコロナ危機を克服し、持続可能な社会をつくるために

SDGs推進円卓会議構成委員による発信

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、「持続可能な開発目標」(SDGs)達成に大きなダメージを与えている。そこでSDGs推進の視点から、以下の3点をSDGs対策本部に緊急提言する。

- ・コロナ禍により、現在の日本の社会・経済システムが持続可能なものでないことが明るみになった。政府は、SDGsが経済復興の羅針盤と再認識し、これを軸に経済再生計画を構成する必要がある。
- ・コロナによるSDGs達成の遅延を最小限に抑えるため、全てのステークホルダーを巻き込み、包摂的な対話機会を保障すべきである。
- ・SDGsの達成された持続可能な「After コロナ社会」を目指すコロナ克服のための国家戦略を策定すべきである。

地域ブロックの活動

6つの地域ブロックで地域の課題に取り組んでいます。ぜひ一緒に参加ください。

1. 中台・常盤台・富士見ブロック	
SDGsの目標 ③ ⑪ ⑰	直下型地震、昨年の台風被害の教訓、新型コロナの感染拡大などの防災体制確率が主たるテーマ。災害に備える生活基盤づくりと地域のネットワークづくりを課題として、何をしなければならぬか、何ができるかを学ぶ。 そして町会等を母体とする地域自衛組織や学校防災のあり方について、行政や町会同士の連携が今後の課題です。
定例会	毎月第3・月曜日 19時～ 会場：主に「たつこのデイサービス」
連絡：下島（090-8464-9611）	

2. 桜川・大谷口・仲町ブロック	
SDGsの目標 ③ ④ ⑪	DVD学習を皮切りに、「SDGs × コンサート in コーシャハイム向原」で平和学習（No.16）、「学ぼう！減らそう！食品ロス」（No.12）、SDGsカードゲーム等でSDGsを学ぶ活動を実施。今後は「共に生き、みんなハッピーになるまちづくり」（No.11）、地域課題として「コミュニティバス運行」の実現に向けて活動していきます。
定例会	毎月第1・土曜日 14時～ 会場：コーシャハイム向原集活動
連絡：林（080-3017-8118）	

※①貧困 ②飢餓はゼロ ③すべての人に健康と福祉 ④質の高い教育 ⑤ジェンダー平等 ⑥安全のトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなに ⑧生きがいも経済成長も

3. 板橋・仲宿・熊野ブロック	
SDGsの目標 ③ ⑪ ⑬	活動のテーマは、 (1) 災害対策について 昨年の台風等の経験から避難について、他のブロックの取組みを参考に学びます。 (2) コロナ対策 新型コロナ感染拡大の自粛の中、地域で生活している要支援者の支え合いについて考えます。
定例会	毎月第4・木曜日 19時～ 会場：デイサービスおむすび
連絡：勝沼（080-3003-8851）	

4. 志村・清水・前野ブロック	
SDGsの目標 ③ ④ ⑪	「おたがいさま」という地域の学びの場を10年間行ってきています。その経験からSDGsの17目標について継続して学びます。また「ささえあい会議清水」と協働で、地域の助け合いの仕組みを考えていきます。防災や高齢者対応の経験から「私たちに何が出来るか？」を考えていきます
定例会	毎月第3・水曜日 18時30分～ 会場：清水児童館、他
連絡：土居（090-3436-3557）	

※⑨産業と技術革新 ⑩人と国の不平等 ⑪まちづくり ⑫作る責任つかう責任 ⑬気象変動 ⑭海の豊かさ ⑮陸に豊かさ ⑯平和と公正 ⑰パートナーシップ

5. 成増・赤塚・徳丸ブロック	
SDGsの目標 ③ ④ ⑪	SDGsについて赤塚第二中学校の中野先生にご講演して頂き、その後新型コロナの影響で計画した活動や会議が出来ない状況です。この地域の特長を活かしたSDGsの課題を抽出し、中高生を巻き込んで世代間交流を図り、様々なグループ、組織、団体と一緒に身近な課題の解決から取り組んでいきます。
定例会	毎月第2・木曜日 19時～ 会場：まなぼーと成増
連絡：三枝（090-3801-5869）	

6. 高島平・舟渡・蓮根ブロック	
SDGsの目標 ③ ⑪ ⑬	テーマ：水害避難所開設のあり方 昨年10月12日（土）の台風19号に備えて、小中学校での指定避難所22ヶ所が開設された。この時ハザードマップで5m水没地域にも指定避難所があった。これを契機に避難所のあり方を公的機関、町会、NPOなどと協働で3回の学習会を行います。 9月には避難手段を学びます。
定例会	毎月第1・火曜日 18時30分～ 会場：高島平団地集会場
連絡：池田（090-9671-4131） 廣瀬（090-2652-9889）	

SDGs「誰も置き去りにしない」の現場は地域にあり

冊子プロジェクト始まりました！

7月12日の総会で承認された「冊子プロジェクト」ですが、第1回打合せを8月2日（日）に行いました。

メンバーは、代表の加藤さん、神元の他に、有志で下島さん、岡本さん、植田さん、薬師神さんが加わり、少数精鋭の6名です。

「冊子」のイメージは三者三様、第1回目はじっくりと目的、対象イメージについて話し合いました。皆さん百戦錬磨の“つわもの”、自分の意見を主張しながらも、異なる意見にもしっかり耳を傾け、市民活動に最も大切な「対話」を通して方向性が見えてきました。

この冊子は、「いたばしと言う地域の視点」で「置き去りにされている課題」を整理し、協働による未来の共生社会へ一歩踏み出すためのものです。

第2回開催は、8月23日（日）。Zoom(オンライン会議)も活用しながら、前回決めた方向性を確認し、具体的な日程・内容を話し合いました。発行は来年3月です。うかうかしてられません！

役割分担を決め、これから本格的に活動していきます。会員のみなさまにも今後アンケートのお願いなど、「冊子」づくりのサポートをお願いいたします。“誰も置き去りにしない”という共通目的に向けぜひご協力ください。

一緒に活動するメンバーはいつでも大歓迎です。(神元)



【冊子の大きな方向性】

- ・「置き去りにされている」課題を見える化し、具体的連携に向けて動き出すきっかけになる
- ・今をどう生きれば、望む未来を自分達で作っていけるのか、未来について考える
- ・地域の資源を知り、つながりを作るきっかけになる

トピックス！「平和のための博物館国際ネットワーク」の国際会議で発表します。

ひろがれ！ピース・ミュージアムいたばし

9月16日（水）から「第10回平和のための博物館国際ネットワーク」(International Network of Museums For Peace, INMP)の「バーチャル・オンライン」会議が開催されます。今回のメインテーマは「次世代への記憶の継承における平和博物館の役割」です。この会議に、<ひろがれ！ピース・ミュージアムいたばし>の参加が決まり、「プレゼンテーション動画」を作成、完成しました。

企画打合せから原稿制作、英訳、プレゼンテーションのデザイン、動画や音声収録、最終仕上げまで、全てをコロナ禍の中で東京・広島・長野の仲間とオンライン(Zoom)での密なコミュニケーションで完成しました。多彩な仲間との共同制作により、強い絆で結ばれた感じがしました。(岡本)

※期間中は下記サイトで上映されますので、皆さまどうぞご視聴ください。

(今回は英語バージョンですが、日本語バージョンも後日作ります)

https:



パンフレットができました！

SDGs
いたばし
ネットワーク

エス・ディー・シーズは
Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称

S すべての板橋区民は
D “誰も置き去りにしない、されない”を目標に
G 具体的な自分事として行動します。
s さあ！つながろうSDGs

SDGsは国連が2030年までに、持続可能な社会を実現するために、17の目標を掲げ、2016年9月の国連サミットで採択された国際目標です。板橋区でも「SDGsを推進する」が大きな課題です。

SDGs いたばし宣言 2019

- 1 「誰も置き去りにしない、されない」を、板橋区民の共通の目標とし、板橋区一人ひとりがSDGsの推進を促す役割を担い、積極的な提案や取り組みを行い、ともにSDGsを推進してまいります。
- 2 推進されている民間事業者や組織、市民団体等と連携し、SDGsの推進を促す取り組みを行います。
- 3 推進されている民間事業者や組織、市民団体等と連携し、SDGsの推進を促す取り組みを行います。
- 4 推進されている民間事業者や組織、市民団体等と連携し、SDGsの推進を促す取り組みを行います。

SDGs「国連の目標【持続可能な開発目標】」とは、そして「パートナーシップで目標を達成しよう」といふ、国際社会の共通の目標です。板橋区が掲げるSDGsの推進は、行政だけでなく、民間企業、市民団体、市民の協力を得る必要があります。

SDGs いたばし宣言 2019

1 推進を促す
2 推進を促す
3 推進を促す

【SDGs いたばし宣言 2019】
SDGs いたばし宣言 2019

SDGs いたばしネットワーク 活動報告

SDGs いたばしネットワークの活動報告です。板橋区民、企業、市民団体のみなさんがSDGsの推進のために取り組んでいます。

活動報告 1,000円
発行部数 1,000部 (2020年3月)

私たちSDGsいたばしネットワークの活動を区民や区内の企業、行政のみなさんなどに広く知ってもらうため、パンフレットを作りました。団体を紹介する名刺のように、活動目的や内容をどなたでもわかりやすいように、簡潔にまとめました。

サイズは持ち運びにも便利な、縦A4の4つ折り観音開きです。このニュースとともに、これからイベントなどで配っていく予定です。



SDGsいたばしの歌ができました♪

いたばしからSDGs

こまっているひを見かけたら
手をさしのべてこえをかけよう
ひとりひとりがこのまちに
美しい星に住んでいる
ちいさな手つないだら
やさしさもつながっていく
SDGs SDGs ここから始めよう
SDGs SDGs 板橋のみんなで

あおぞらにひびく元気な声
みらいのために守っていこう
いろんな色を認め合って
いのちを鮮やかに描こう
わたしたちにできること
今ここで誓い合おう
SDGs SDGs 世界へ広げよう
SDGs SDGs 板橋のみんなで

SDGs SDGs ここから始めよう
SDGs SDGs 板橋のみんなで



子育て応援主婦バンド音ごほんのみなさん

板橋区で活躍する子育て応援主婦バンド音ごほんを主宰するもともとこさんの作詞作曲で、SDGsいたばしネットワークのオリジナルソングを作ってもらいました。

SDGsの腹話術も登場!



大竹さんと人形のさんちゃん

7月12日のSDGsいたばしネットワークの総会では、劇団銅鑼の大竹直哉さんが腹話術を披露。SDGsを楽しくわかりやすく解説して会場を大いに盛り上げてくれました。

コロナの影響か、皆さんギスギスしている不寛容な社会になりつつあるのかなと。そんな中で寛容な社会を目指すとは…そんな思いで作った台本です。



「いたばしからSDGs」の歌はこちらのQRコードから聞くことができます。ぜひお聞きください。

—お知らせ & 会員・ボランティア募集—



私たちの原点「SDGs いたばし宣言 2019」から1年半が経ちました。
ここでもう一度確認しましょう。

SDGsいたばし宣言2019

今、かけがえのない命が、そしてかけがえのない母なる地球が悲鳴をあげています。この尊い生命を、この尊い地球を、そして、この地域を守りたい…

世界中の国々は2030年に向けて、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）- 貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継いでいくため、貧困、飢餓、健康、福祉、教育、ジェンダー、格差、環境、平和など17の目標の達成に取り組んでいます。

今ここに、「SDGs いたばしネットワーク」の設立趣旨である、私たちの地域「いたばし」の、そして、世界のこども・若者から高齢者まですべての市民一人ひとりが誰も置き去りにされず、生き生きと暮らし続けることができる「持続可能な」社会の実現をめざす取り組みに賛同する181団体の参加協力を得て開催された「SDGs いたばしの集い」に参加した私たちの総意として、本日、次のとおり宣言します。

1. 「誰も置き去りにしない・されない社会」の実現をめざし、私たち一人ひとりが人間の尊厳を脅かす課題を直視し、垣根や差異を超えてつながり合い、ともに学び合い、協力しあいます
2. 置き去りにされている課題を身近な地域で学び合える場づくりに取り組むとともに、私自身の課題として学びます
3. 置き去りにされている課題の根っこを発見し、ともに協力し解決に取り組めます
4. 未来の希望である子どもたち・次世代をみんなで守り育み、子どもたちが参画できるまちづくりに取り組みます
5. 私たちの、そして、SDGs いたばしネットワークの取り組みを広く発信し、日本と世界の人々と友だちになります

2019年3月23日 SDGsいたばしの集い



SDGs いたばしネットワーク・会員募集

「誰も置き去りにしない」共助（ともに生きる）・共生社会の実現をめざし、一緒に活動しませんか？個人・団体を問いません。区外の方もOKです。

年会費は1,000円です。入会ご希望の方は、下記までお問合せください。

ボランティア募集

一緒にSDGs いたばしネットワーク事務局の運営をお手伝いしていただだけませんか。

ご興味のある方、詳しく話を聞きたい方は、下記までお問合せください。

※活動事例：各種イベントの支援、ホームページ作成・管理、情報収集など

編集後記：コロナ禍で国際目標SDGsが忘れられた存在になりつつある。2030年までに全17項目の目標達成が危ぶまれている。そんな折、これから何が重要かをテーマにオンライン座談会が新聞社主催で開催された。その終盤ある講演者の体験談が“原点”を思い出させてくれた。それは大人から高校生までの集会で、SDGsの目標達成に危機感があるという大人の発言に、高校生が「2030年、その後を生きる私たちはどうすれば良いのか」と云うものであった。忘れていた。目標達成は次のスタートラインという事を。コロナ禍だからこその難局を乗り越える。これが大人の知恵と責任である。次号は少しそれに近づこう。(a)

SDGs
いたばし
ネットワーク
ニュース

第3号

発行者：SDGsいたばしネットワーク 代表 加藤 勉

発行日：2020年9月12日

〒173-0004 板橋区板橋3丁目63-5（みんなのたすけあいセンターいたばし内）

Tel: 03-5944-1366 Fax: 03-5943-1888 Mail: sdgs-itabashi@mbr.nifty.com